［透析医療における Current Topics 2001］

相補・代替・伝統医療の透析患者への応用

阿岸鉄三

1　相補・代替・伝統医療とは

補完・代替・伝統医療（以後，CAT（complementary, alternative and traditional）医療と略称）とは，近代西洋科学的考えを基盤とする現代医療に対して，補うもの，替るもの，現代医療の成立前から存在したものの意味である．われわれが日本における医療と呼ぶ場合には，通常，日本政府（厚生労働省）によって認知された医療を意味しており，さらに実際的には，健康保険による支払い報酬の対象となる医療行為を指していることが圧倒的に多い．しかし，これはいわば，狭義の医療であり，日本の実状をみると，CAT 医療，ときには，医療類似行為が頻繁に応用されていることを知っており，これらを含めて広義の医療とも呼ぶべきものの存在が気付かれる．現代医療以外の医療は，すべて民間医療と蔑んで，拒否すべきであろうかという問題提起が，本稿の論点である．

日本中の街角に，CAT 医療施術所の広告・看板が目につく．この現象は，世界的であり，CAT 医療に対する行政の対応としては，わが国は，米国などに遥かに立ち後れている．米国では，NIH のなかに NCCAM（National Center for Complementary and Alternative Medicine）が，数十億円の予算を得て活動を開始している．現代医学には，受け入れられていないとしても，なんらかの医療としての有用性がなければ，この盛況は説明できないのではなかろうか．

まず，CAT 医療として，具体的にどのようなものがあるかが問題になるが，わが国では，参考になるまとまった資料は目につかない．NCCAM の前身である Office of Alternative Medicine が，1992 に開催したワークショップの報告書[1)]に収載されているものを中心に列記すると，**表 1** のようになる．この中で，（外）気功と（人工）炭酸泉浴を維持透析患者に応用し，驚異的ともいうべき効果が得られたので報告するとともに，CAT 医療に対する私見を述べたい．

2　維持透析患者に対する補完・代替・伝統医療の実際

1）　外気功治療による治療

①　外気功治療

外気功，あるいは外気功類似の施療法には，いくつもの流派があるが，筆者が経験したものは，手掌を患者の主に側頭部，および患部にかざす方法である．米国でも，ほぼ同様の手法があり，therapeutic touch と呼んでいる．当初は，いわゆる気功師に，患者に対して施療してもらったが，途中からは筆者自身が，外気功を行うことができるようになった．普通，1 回に 10 分程度の施療を，週 1 回程度の頻度で行った（**図 1**）．

患者に起きる反応は

1.　精神的（内的）反応

　a）　即時的

　b）　長期的

2.　肉体的（外的）反応

とに分けられる（**表 2**）．

②　閉塞性動脈硬化症（ASO）症状に対する外気功

ASO 患者では，身体，特に下肢の冷感を訴えることが多いことから，外気功による身体の温感を利用しようとしたのである．

板橋中央総合病院血液浄化療法センター

表 1　CAT 医療のリスト

Ⅰ. Mind-Body Interventions　心身相関医療
1) Psychotherapy　心理療法
2) Meditation　瞑想療法
3) Imagery　イメージ療法
4) Hypnosis　催眠療法
5) Biofeedback　バイオフィードバック
6) Yoga　ヨガ
7) Dance/movement therapy　ダンス/運動療法
8) Music therapy　音楽療法
9) Art therapy　芸術療法
10) Painting（picture）therapy　絵画療法*
11) Prayer/mental healing techniques　祈祷/精神的ヒーリング療法

Ⅱ. Bioelectormagnetics Applications　生電磁的医療
1) Endogenous（internal）fields　内因性場
2) Exogenous（external）fields　外因性場

Ⅲ. Alternative Systems of Medical Practice　代替医療システム
Professionalized health care systems　職業化されたヘルスケア
＝Traditional oriental medicine　伝統的東洋医療
1) Acupuncture　鍼療法
2) Moxibustion　灸療法*
3) Ayurvedic medicine　アーユルベーダ
4) Homeopathy　ホメオパチー
5) Anthroposophy
6) Naturopathy
7) Environmental medicine　環境医学（生気象学）
8) Herbal medicine　ハーブ療法
9) Qigong　気功
10) Oriental massage　東洋マッサージ
11) Aroma therapy　香り療法*
12) Community-based health care practice　地域社会に根ざした医療

Ⅳ. Manual Healing Methods　手によるヒーリング
1) Osteopathic medicine　整骨療法
2) Chiropractic science　脊柱指圧療法
3) Massage therapy　マッサージ療法
4) Biofield therapeutics　生体場療法（気功*）

Ⅴ. Pharmacological and Biological Treatments　薬理学的・生物学的治療
1) Antineoplastons（peptide →癌・AIDS）
2) Cartilage products（軟骨製剤→癌・関節炎）
3) EDTA（→心疾患・リウマチ・癌）
4) Immunoaugumentive therapy（→癌）
5) Biologically guided chemotherapy（→癌・AIDS・心疾患・肝炎）

Ⅵ. Herbal Medicine　ハーブ療法

Ⅶ. Balneotherapy　温泉療法*

Ⅷ. Diet and Nutrition in the Prevention and Treatment of Chronic Diseases　慢性疾患に対する予防・治療としての食事（健康食品*・補助食品*）

＊文献 1 の内容に筆者が加えたもの

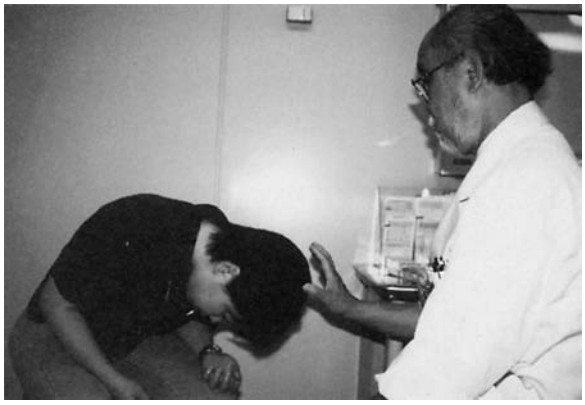


図 1　外気功時の患者の反応状況

表 2　外気功に対する患者の反応

1. 精神的（内的）反応
　a) 即時的：送功開始後数十秒以内に始まる
　　頭の中のふわふわ/ぐるぐる廻る感じ
　　安らかな気持ちになり眠くなる～半睡眠状態
　　頭部・顔面から体幹・四肢に温感が流れる感じ
　　指・手掌にチクチク・ムズムズする感じ
　　上半身が引かれる/押される感じ
　b) 長期的：外気功を繰り返すうちに次第に
　　安らかな，明るい，穏やかな，受け入れる気持ち
　　他人・動物・植物・非生物にも優しい気持ち
　　活気・元気が出る
2. 肉体的（外的）反応
　　顔面の紅潮
　　全身の発汗
　　唾液分泌亢進
　　腸蠕動の亢進
　　上半身の一方向への傾斜～回旋
　　指～肩までの筋痙攣
　　上肢・下肢の脱力・固定
　　会話は自由に可能
　送功を終了して，自ら～数回の拍手でビックリしたように覚醒

a) 患者の主観的効果

26 名に応用し，26 名（100.0%）に，身体の温感を主とする効果がみられた（**表 3**）.

b) 生理学的検査における効果

サーモグラフィにおける下肢体表面温度の上昇：26 例中 25 例（96.2%）に温度上昇の効果が認められた（表 3，**図 2**）.

容積趾尖脈波（プレチスモグラフィ）における改善：17 例中 14 例（82.4%）に改善効果が認められた（表 3，**図 3**）.

Doppler echo 血流計による末梢血流の改善：10 例中 9 例（90.0%）に改善効果が認められた（表 3，**図 4**）.

③　関節症状などに対する外気功の効果

肩関節痛軽快・可動域拡大/上腕痛：13（有効例数）/13（施行例数）（以下同じ）

腰痛軽快：6/6

股関節痛軽快/膝関節痛軽快・可動域拡大：9/9

正座が可能になる（3 例）．しゃがむことが可能になる（3 例）．歩行が容易になる（4 例）．階段昇降が楽になる（6 例）．身体が軽くなる（3 例）．便秘改善（5 例）．不眠改善（5 例）．活気・元気が出る（5 例）．

表 3　維持透析患者にみられた外気功による ASO 症状の改善効果

	自覚症状	局所表面温度	容積趾尖脈波	局所血流
著しい改善	9 (34.6%)	2 (7.7%)	4 (23.5%)	2 (20.0%)
中等度改善	17 (65.4%)	15 (57.7%)	3 (17.7%)	4 (40.0%)
軽度改善	0 (0.0%)	8 (30.8%)	7 (41.2%)	3 (30.0%)
不変	0 (0.0%)	1 (3.9%)	3 (17.7%)	1 (10.0%)
増悪	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	26 (100.0%)	26 (100.0%)	17 (100.0%)	10 (100.0%)
有効率	26/26 (100.0%)	25/26 (96.2%)	14/17 (82.4%)	9/10 (90.0%)

（12 名の患者に 26 回の施行結果）

2）　人工炭酸泉浴

①　人工炭酸泉浴

末梢血流改善の目的から人工炭酸泉浴の機器が市販されている（三菱レイヨンエンジニアリング社）．原理は，37～8℃ の温水中で透過膜を介して CO_2 ガスを流し，1,000 ppm 程度の濃度とする簡単なものである．この中で，患者を温浴させる．

②　足潰瘍に対する人工炭酸泉浴

糖尿病性腎症由来の維持透析患者で ASO による下肢壊死のある 3 名に，血液透析終了後に下肢のみの人工炭酸泉浴を行った．数回の施療後から，壊死部分は明らかな縮小傾向を示し，易出血性の肉芽組織が新生してくるのが観察された．

3　現代医学からみた相補・代替・伝統医療

筆者が経験した CAT 医療の効果は，目覚ましいものがあった．現代医学の教育・修練を受けてきた筆者にとって当然のことながら，当初は，まったく受け入れがたいものであった．手掌を側頭部にかざすと，患者に精神的・肉体的反応が起きることは，現代生理学では認められない．また，（人工）炭酸泉浴によって下肢の壊死が回復に向かったことも説明しがたいことであった．CAT 療法の多くは，その生理学的・薬理学的作用原理が解明されていない．しかし，生体に起きる好ましい効果が，ときに事実として認められる現実がある．

通常，われわれは現代医学を近代科学に根拠をおく

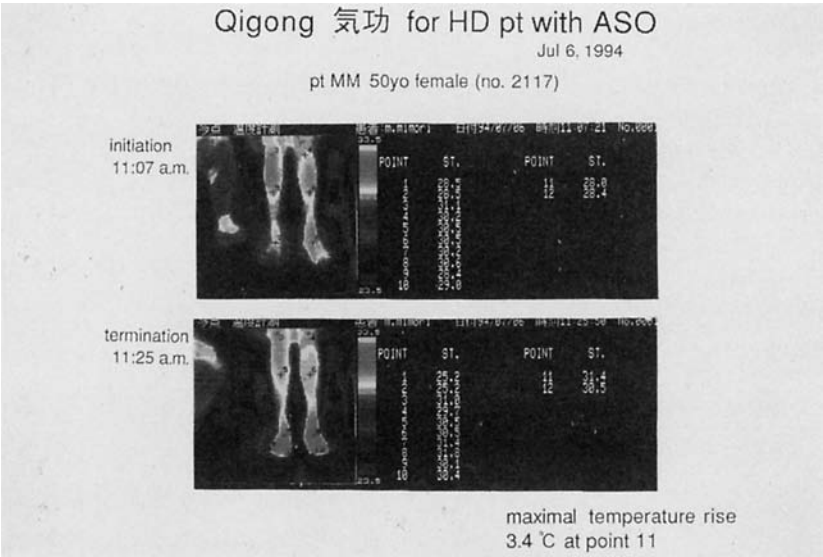


図 2　サーモグラフィにおける下肢温度の上昇効果

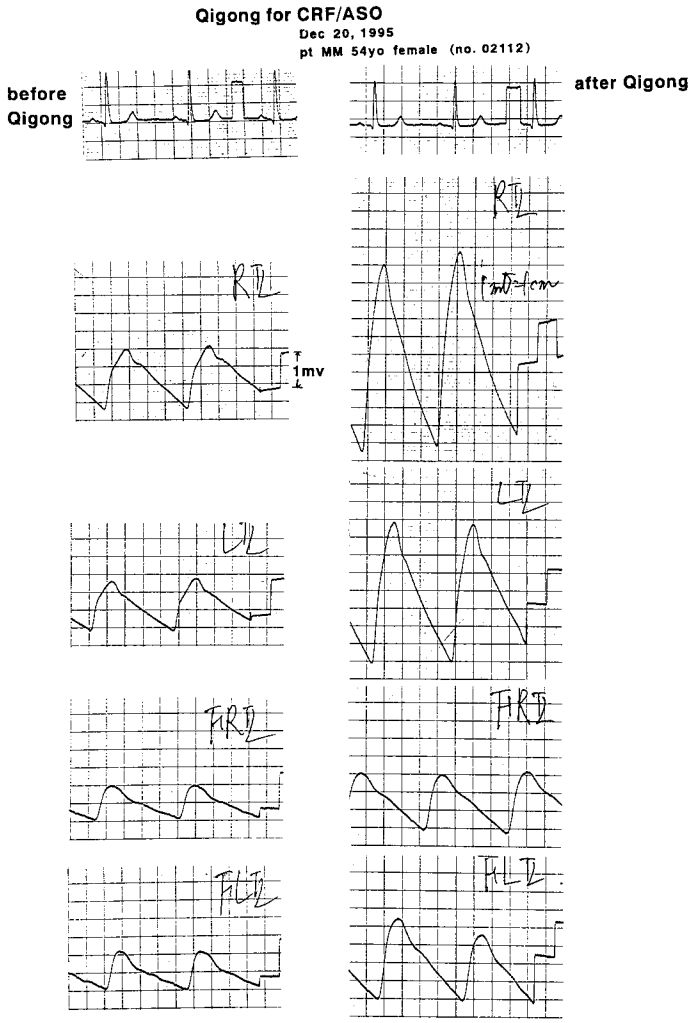
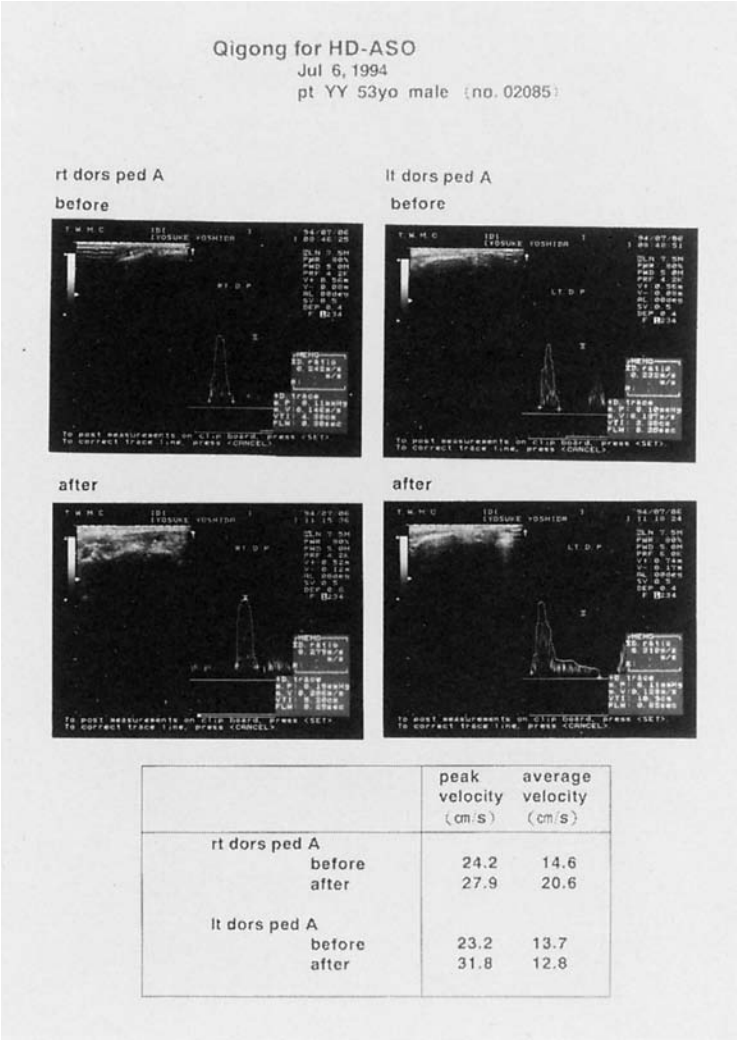


図 3　容積趾尖脈波における改善効果

と考えている．そして，いわゆる近代科学的に理解できないことを，非科学的として排除するのが一般的である．しかし，少し突っ込んでみると，第一に，現代医学は，本当に，科学としてのみで取り扱っていいのかという問題がある．たしかに，現代医学の多くの部分は，近代科学のものの考え方，それから発展した科学的技術にもとづいている．しかし，少し厳密に考えると，医学・医療には，科学的というには不適切な要素があることを指摘できる．一般に，科学的である要件として，普遍性・再現性・客観性のあるとが求められる．論理の一貫性を求めることもある．しかし，たとえば普遍性については，通常 P＞0.05 である場合には，集団内における医学的な事象の整合性を認めるが，この場合でも 20 回に 1 回の不整合の存在を許認する根拠がない．すなわち，集団についての評価はあるが，個についての評価に及んでいない．再現性については，同一患者に，同種の薬剤を同量投与して，二度と同一効果が得られることはないのに，投与を続ける事実がある．客観性を求めるなら，精神科の診療は成立しない．多くの精神科的疾患においては，精神機能の場と考えられる脳などに相応する器質的変化が確定されていないのに，精神科医師の独断によって診断が行われている．論理性については，現代医学においては，陽性所見のみが重視・採用されており，陰性所見は，ほぼ無視されている．たとえば，腎血管性高血圧について，腎虚血がレニン−アンギオテンシン−アルドステロン系を活性化する説明は明解であるが，腎虚血があっても高血圧が生じない場合の説明はなくても，この説はまかり通っている．このように，われわれが日常的に行っている医学的治療が科学的とはいえない状況にあるのは否定できない．

中村[2] は，病原菌に感染しても発病しない例のあることから，科学的医学の限界を指摘している．

さらに，古くから医療は，「単なる技術ではなく，



	peak velocity (cm/s)	average velocity (cm/s)
rt dors ped A		
before	24.2	14.6
after	27.9	20.6
lt dors ped A		
before	23.2	13.7
after	31.8	12.8

図４　末梢血流の改善効果

アート（芸術）である」べきという言い方がある[3]．筆者は，これを感性の触れ合うことの必要性と解釈している．現代では一部に，科学と芸術の融合を唱える考えもあるが[4]，まだ普遍的とはいえない状況にあり，一般には感性の触れあいは，科学的には理解されないものとされていると考えられる．異論はあろうが，医療の原点とみられているシャーマニズムは，感性の呼びかけと受け入れの関係と考えられる宗教との間に明らかな限界線が引けない．

第二に，近代科学のみが自然界に存在する事物，自然界に生起する事象を説明する唯一のパラダイム（ものの考え方の枠組み）であるのかという問題提起がある．

池辺[5]は，「見えない領域，手で触れることのできない超自然的な領域，端的にいえば，時間や精神の領域では，（科学は）無力である」としている．さらに，主に，ニューサイエンスグループと呼ばれる人たちからの強力な発言もある．「科学者たちは，科学主義の罠に陥り，かつての教会と同じく，自らの所業を正当化するため，独善的理論を生み出す」（Julian Jaynes, 1977），「瞑想・変性意識状態研究が科学的でないといわれたとしても，必ずしも即座に，無効・検証不能・非理性的・無意味を意味しない」[6] などであり，科学至上主義者の慣習に対抗するものとされる．

4　これからは統合医療のパラダイムへ進む

20 世紀は技術の時代とも呼ばれ，近代科学に裏打ちされた技術が発展し，地球上の一部の人類は物質的文明を享受することができた．医療技術も，当然その中に含まれる．しかし，精神的文明の視座からは，退行傾向にあったと指摘されるべき要素もある．

現代では，どうして「癒し」と呼ばれるものに人気があるのか．筆者は，癒しを求める本質は古代への懐古にあると考えている[7]．人類の生活習慣に対応する

遺伝子形質の大部分は数万年〜数十万年前のままなのに，文明的と称する生活習慣は，急激な変化をとげていることに対する不適応感からくる悲鳴が，癒しへの希求であるとみなされる．癒しは，本来，自発的・自動的であるが，CAT 療法は，癒しを活性化する技術を提供するものと考えられる．

21 世紀は，さらに物質的文明が発展することが予測され，CAT 療法の適用が一層求められるであろうと確信する．現代医療と CAT 療法の融合の医療は，統合医学（医療）（integrative medicine）と呼ばれ，これからの医療の進むべき方向であると考えられる．

文　献

1） Alternative Medicine Expanding Medical Horizons; NIH, USA, 1992.
2） 中村雄二郎：臨床の知とはなにか; 岩波書店，東京，p 152，1999.
3） 日野原重明：現代医学と宗教; 岩波書店，東京，p 14，1997.
4） 坂根巌夫：科学と芸術の間; 朝日選書 308，朝日新聞社，東京，p 195，1986.
5） 池辺義教：医学を哲学する; 世界思想社，東京，p 49，1996.
6） Wilber K : Eye to eye; The Quest for New Paradigm; Anchor Press/Doubleday, New York, 1983.
7） 阿岸鉄三：“癒し”は古代への復帰希求．日本医事新報，No. 4005; 55，2001.